



伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク

# 基本計画・行動計画

2021-2025



伊豆半島ジオパーク推進協議会

2021年（令和3年）7月

## 目 次

### 第1章 伊豆半島ジオパークの目指すビジョン

- 1 輝く<sup>みらい</sup>次世代へ、動き続ける伊豆半島……………2
- 2 伊豆半島ジオパークが目指す姿……………2

### 第2章 取り組み方針と行動計画

- 1 研究と保全……………3
- 2 教育活動（学校・社会）……………9
- 3 ツーリズム・地域振興……………12
- 4 災害リスクの軽減……………15
- 5 運営体制の強化……………18
- 6 ネットワーク活動の強化とパートナーシップ……………24
- 7 普及広報・情報発信計画……………28

### 第3章 活動の評価

- 1 活動評価についての基本的な考え方……………34
- 2 日本ジオパーク委員会（JGC）及びユネスコによる評価……………34
- 3 GGNの年次報告書（毎年）……………34
- 4 ユネスコによる再審査（4年に1回実施）……………34
- 5 顧客による評価……………34
- 6 サステイナブルツーリズムの効果測定……………35

### 別冊【資料編】

基本計画策定のためのワークショップ概要およびアンケート結果

基本計画策定に関するパブリックコメントへの意見および推進協議会の回答

SDGs とは

伊豆半島ジオパークにおける自然遺産リスト

伊豆半島ジオパークにおける文化遺産リスト

# 第1章 伊豆半島ジオパークの目指すビジョン

## 1. 輝く次世代へ、動き続ける伊豆半島

伊豆半島ジオパークは「世界ジオパークとしての価値の提供」として

- ① 世界的にも特異な伊豆半島成り立ちを反映する地形と地質の価値
- ② 動く大地に生きる人々の自然観と大地の遺産の活用、先進的な防災の取り組み
- ③ 地域住民が主体となった持続可能な取り組み

を通じ、輝く次世代へ、活動し続け持続可能な伊豆半島の実現を目指します。

## 2. 伊豆半島ジオパークが目指す姿

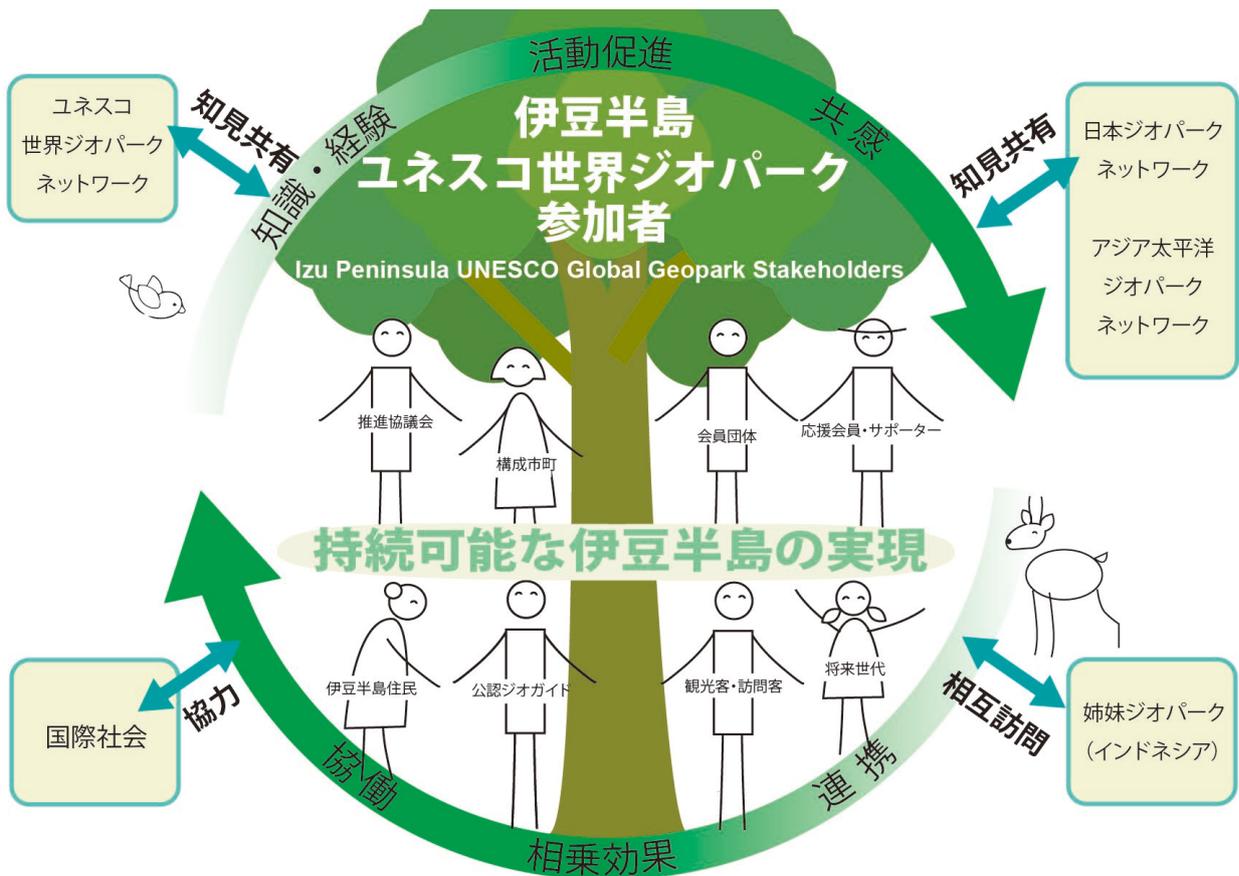


図 4-1 伊豆半島ジオパークが目指す姿（概念図）

## 第2章 取り組み方針と行動計画

### 1. 研究と保全



#### 1-1 基本的な考え方

伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局には3名の専任研究員がおり、伊豆半島にかかわる各分野の研究に努めています。また世界的価値を持つ大地の遺産があってユネスコ世界ジオパークに認証されたことから、その価値に相応しい研究が行われていることになっています。そこで「学術研究助成」制度を整え、世界先端レベルの研究を奨励し、英文による査読論文の刊行を励行しています。こうして得られた研究成果は毎年地域に還元され、サイトの解説やガイド活動に活用されています。伊豆半島ジオパークの領域内には複数の大学キャンパスが設置されており、これらの大学との協働の一端として専任研究員を派遣して講義を兼担して伊豆半島をフィールドとする共同研究の端緒としています。この中で、2019年（平成31年）4月、静岡大学の研究施設とジオパークの研究活動展示施設「あまじお」を整備し、従来の地質学のみならず生物学での協働も始まっています。これら様々な分野での研究活動を推進して新たな知見を蓄積させるとともに、これらの成果を地域やジオパーク活動に還元していきます。

保全分野においては、伊豆半島ジオパークの多くのサイトは自然公園法や条例、文化財保護法、森林整備計画等が整えられていますが、法的保全がなされていないサイトも一部にあります。このため、伊豆半島ジオパークは、今後サイトの保全状況が悪化した際に、保全が図れるようエコツーリズム推進法に基づき、エコツーリズム推進基本構想の策定作業を進めており、環境省より本構想の承認後は、構想の基本方針に基づき、構成市町と連携しながら各サイトの保全と活用の適正化を図ります。

#### 1-2 SDGs 指標の実現に向けて

ジオパークの基盤となる「伊豆半島ならではの価値」を物語る遺産を保全・活用しながら将来にわたって様々な教育の場での普及・啓発に努め、次世代につながる持続可能な活動ができるよう市町やジオガイド協会や関係機関との連携を強化して、研究保全活動の定着化により適正なサイト管理を行い、伊豆半島の豊かな陸の豊かさや海の豊かさを継承していきます。

#### 1-3 保全活動方針

伊豆半島の魅力は、第2章で述べたように世界に類を見ない特異な地球活動の歴史と現在も続く火山活動や地殻変動によってなり立っています。サイトの一部は国立公園に

指定されており、自然公園法、自然環境保全法、文化財保護法、森林法、海岸法、河川法、土地利用関係法令、その他の条例によってサイトの多くが保護・保全されています。一方で法律・条例の保護対象となっていないサイトもあり、伊豆半島ジオパークでは価値ある自然の遺産を持続的に守り活用していくために、サイトの保全に関する方針及び計画を策定し、次世代に継承していきます。大地の遺産とは、生態や景観、文化が大地を土台にして成り立っているという考えに基づきます。

伊豆半島ジオパークでは、大地の遺産と社会のつながりを常に意識する評価方法と、それに基づいた大地の遺産の保全の仕組みを作りに取り組んでいます。その第一段階として、平成 25 年度（2013 年度）には環境省の協力を得て自然文化資源活用調査を行い、ジオサイト及び関連する自然文化資源（無形文化、信仰等も含む）の情報カルテを作成しました。2020 年（令和 2 年）からは伊豆地域をケーススタディとした持続可能なツーリズムの評価体系の策定に取り組みました。また、行政や事業者、地域住民が計画的に各サイトを保護、保全するためには指針が必要であることから、現在伊豆半島エコツーリズム推進基本構想を策定し、サイトの保全及び活用のガイドラインを策定しています。

今後は、これまでの保全成果や構想指針等をもとに、学術研究による知識を地域の方々や内外の訪問者にも適切に周知し、課題解決に向けた意見が常にフィードバックされ改善されるよう、地域住民や研究者、行政等が各段階で主体となって活動できる体制の構築と実践を目指します。また、環境保全や景観保全についても伊豆半島ジオパークとして構成市町や会員や団体等、地域住民を含めた関係機関との連携を密に取り組んでいきます。

#### **1-4 サイトの保全・維持管理**

伊豆半島ジオパークにおけるジオサイトの維持管理、保全の現状や事例、データについて、(1)法令等による規制、(2)自然再生、結果的保全、(3)ジオパーク、その他の活動の3つの種別に分類されています。

##### **1-4-1 法令等による規制－自然公園法、文化財保護法、条例等による保全**

伊豆半島ジオパークは、自然公園法にもとづく富士箱根伊豆国立公園の伊豆半島地域（22km<sup>2</sup>）を含んでいます。同地域は主に固有種やブナ林などの貴重な生態が残る天城山などの山稜部と海岸線からなり、ジオサイト 159 箇所のうち、国立公園として保護されているサイトは 80 箇所あります。

このうち特別地域内は 72 箇所、特別保護地区内のサイトは 2 箇所（八丁池及び天城山の原生植物群落）です（詳細はジオサイトリストを参照）。国立公園内では開発、工事、伐採等が制限されるなど強力な規制が働いています。

また、文化財保護法・条例に基づく文化財は、ジオパーク内に国・県・市町指定を合計すると、750 箇所以上存在します。うち 40 箇所はサイトであり、それ以外にも貴重な植物の群落等も天然記念物に指定されているケースが多くあります。その他、景観（下田・熱海・伊豆の国など）、屋外広告物（三島など）、環境（長泉など）の各条例や海岸保全基本計画、地域森林計画など各種法律に基づき県や市町が定める計画も有効な規制作用となっています。

#### 1-4-2 地域社会による自然再生及び結果的保全

伊豆半島の地域では、ジオパークという言葉が使われる以前より、自然再生が自発的に行われてきた活動があります。主に自然再生運動と結果的保全の例を紹介します。

##### a) 自然再生への取り組み

一度悪化した景観や生態系を取り戻そうと、地道な努力と適切な方法により自然再生に取り組んでいる事例があります。地元社会の積極的な参加と基本方針によって守り支えられているこれらの活動は、「景観」や「生態系」という観点に立っており、結果的にジオパークの多様な活動による保全に寄与しています。

#### 自然再生の取り組み事例

<p>柿田川 (清水町)</p>	<p>富士山の湧水が形成する 1.2km の貴重な清流であり、固有の生態系を育んでいます。経済成長期には工場の進出などによって川の環境が著しく劣化したが、その後ナショナルトラスト運動の先駆けともなる環境回復活動によって清流が再生しました。現在も柿田川の自然再生を進めるため、国土交通省沼津河川国道事務所は「柿田川自然再生検討会」を設置し、2011 年度に「柿田川自然再生計画」を策定。有識者、保護団体等との協力を通じた自然再生が行われています。</p>
<p>三島の湧水群 (三島市)</p>	<p>柿田川と同様、三島市の湧水群においても熱心な地元住民や保護団体が中心となり精力的に自然再生活動が展開されています。NPO 法人グランドワーク三島の活動により源兵衛川は 2018 年に世界水遺産に登録されました。</p>
<p>石部の棚田 (松崎町)</p>	<p>松崎町石部の山間に石積みの棚田が約 370 枚、4.2ha にわたって広がる。農業従事者が住民やボランティアの協力を得て、全体の 90% に達した放棄棚田の回復を行い、美しい景観を取り戻しました。棚田オーナー、トラスト会員制度により首都圏からの来訪者、企業や県内大学生との協働の輪も広がっており、集落活性化の起点として活用されています。</p>

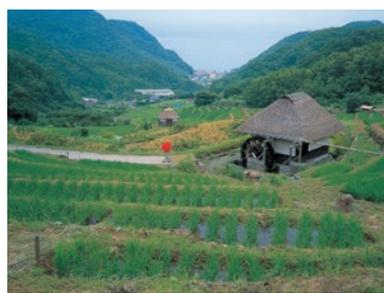


図 5-1 自然再生の取り組み事例（左：三島湧水のミシマバイカモ、右：石部の棚田）

## b) 伝統的に守られている景観保全のとりくみ

古来より伊豆の人々は自然資源の一部を共同で利用し、その資源と関係する景観や生態を維持してきました。その目的は山焼きなどによる資源利用や、習俗や信仰もあります。このように伝統的に守られてきた景観は結果的保全として評価されます。長い年月を経て残されてきた景観は、伊豆半島ジオパークの各サイトの保全に繋がっています。

### 伝統的に守られている景観の事例

サイト名	活 動 内 容
大室山 (伊東市)	4000年前の噴火で誕生した日本最大級のスコリア丘では、約700年前から茅取りのため山焼きが行われてきた。山焼きによって森林の萌芽が抑止され、美しい姿が保たれている。
三筋山・細野高原 (東伊豆町)	三筋山はかつての大型陸上火山・天城山の一部を形成し、その南東斜面の地すべりによって細野高原が形成された。秋にはススキが一面に広がる。大室山同様、古くからの山焼きにより森林の育成が抑えられ、火山斜面の地形が維持されている。
巨樹・巨木	伊豆半島には巨樹巨木が数多く残っている。古くから鎮守の森として守られてきた事例が多く、暖地性樹木の北限になっている。古来の信仰や文化によって残されたこれらの植物は、伊豆半島の自然環境を示している。
シラヌタの池 (東伊豆町)	川久保川の上流に位置するシラヌタの池は約80万～20万年前の噴火でつくられた天城火山の地すべりでできた窪地が湛水した池で、原生林に囲まれ、天然記念物モリアオガエルの生息地である。アクセスが安易ではないため人為影響が少なく、結果的に自然環境の保全を達成している。

## c) ジオパーク活動による保全

伊豆半島ジオパーク推進協議会が発足し、伊豆半島がジオパークとして国内外から認知されたことが契機となり、慣れ親しんだ景色に新たな価値を見出し、保全活動に取り組んでいます。例として露頭の保全や、地層の剥ぎ取り標本作成などが挙げられます。

また、土木工事で出現する地質のジオパークとしての価値等についても、静岡県庁市町の土木職員への研修も行っており、保護保全の普及に繋がっています。

### ジオパーク活動として行われている保全事例

サイト名	活 動 内 容
一色の枕状溶岩 保全活動 (西伊豆町)	伊豆半島最古の地層（仁科層群）、枕状溶岩の露頭。ジオパーク活動によってその価値が認識され、町内会によって実質的な保全が行われた。ジオパークの世界認定後は松崎高校サイエンス部や地域のジオガイドによって継承されている。
県土木職員研修	ジオサイトをはじめとする地質遺産は工事により失われることもある。協議会では、無理解による遺産の喪失を防ぐため工事を所管する静岡県や市町の土木職員を対象としたジオパークや景観に関する研修を行い、遺産の保全や景観に対する理解を促した。既に10年行っているこの研修により、工事での出現露頭の剥ぎ取りや3次元デジタルデータの計測による保全が実施されてきた。

上記以外にも、ジオパークエリア内で行われている景観の保護・保全、整備や清掃活動がステークホルダーによって日常的に実施されており、ジオパークの自然文化遺産の保護に直接関連します。

### その他の保全にかかわる活動事例

活動種別	内容
海の清掃活動 (伊東市、下田市)	ダイビングショップ有志で構成する伊豆半島ジオマリンクラブは年間数回、伊東市の八幡野、富戸海岸の海中のごみ収集を行っている。また下田海岸では地元のジオガイドらが海岸清掃を開催。清掃時には小学生の参加を募り、ビーチコーミングを兼ねて楽しみながらごみ拾いをするといった工夫をしている。

#### 1-5 研究活動の取り組み

伊豆半島における学術研究の底上げを目指し、2015年度（平成27年度）から若手研究者の研究奨励を始めました。ユネスコ世界ジオパーク認定を受けた2018年度（平成30年度）からは方針を変更し、世界レベルの研究を支援して、英文による査読論文刊行を励行する研究助成へ変更しました。また研究助成制度を機関研究者に広く周知することで幅広い分野の研究が行われるようになりました。研究助成採択者には、研究成果を一般市民に向け専門用語を排除しアウトリーチする視点で成果講演を行っています。世界的な先端研究の普及、地域浸透にも貢献してきました。これからも各サイトの内容の高度化を図るために、研究サイトを中心に研究調査を進めるほか、研究拠点として整備した「あまじお」を活用した研究活動に取り組みます。

表5-1 過去4年間の「伊豆半島ジオパーク学術研究助成」採択研究分野別件数

	地球科学分野	生命科学分野	人文社会科学分野
2017年度	2	1	
2018年度	2	2	
2019年度	2	1	
2020年度	1	1	1

また、伊豆半島ジオパーク学術研究助成事業を継続するとともに、これまでに蓄積された研究資料について、積極的な情報発信を図り学術的研究の利活用を図ります。また引き続き、管内の高等学校での研究成果の発表の場を設けるなどの支援に取り組みます。

#### 1-6 目指す姿

ジオパーク推進協議会自身が研究を実践して、また世界を先導する研究を奨励して、得られる知見が保全を行う根拠になります。一方で経験知にもとづく伝統を普及して、様々なステークホルダーの参画による実質的な保全にも努めていきます。さらにエコツアー

ズム推進基本構想によって保全が図れる方策を確立していきます。

行動計画 2021～2025年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
サイトの保全・管理	構成各市町 協力：ジオパーク推進協議会	保全・ 管理の 実施	保全・ 管理の 実施	保全・ 管理の 実施	サイト の見直 し	サイト の見直 し	サイトの見直 しによる整理 (100程度に)
県市町土木職員を対象にした研修	静岡県建設技術監理セ ンター	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	毎年 開催
住民や学校、利害関 係者による実質的な 保全	ジオパーク推進協議会	継続 実施	継続 実施	新実 施地 立案	新実 施地 実装	継続	新規サイトで の運用2箇所 以上
あまじおでの研究調 査活動と利活用	ジオパーク推進協議会 静岡大学・地域住民	研究 活動	論文 執筆	研究 活動	論文 執筆	研究 活動	各研究員 論文刊行
地質・自然・文化等 の研究データベース 更新・活用	ジオパーク推進協議会	文化 DB作 成	自然 DB作 成	DBの 成果 実装	DBの 成果 実装	DB更 新着 手	DBによる新 規ツアー造 成(3件)
伊豆半島ジオパーク 学術研究助成事業	ジオパーク推進協議会	実施	継続	継続	継続	継続	開催成果の 活用事例3 件以上



## 2. 教育活動（学校・社会）

### 2-1 基本的な考え方

ジオパークの教育活動は、ただ単に岩石や地層の知識を学ぶのではなく、大地の成り立ちと人々の歴史や産業、文化とのつながりを学び、地域の良さや魅力に気づき郷土愛を育む活動であり、そこから地域の持続可能な開発のために自然環境の保全や地域の課題解決に向けて行動できる人材を育てることです。このような教育は「持続可能な社会の創り手を育てる教育（ESD）」として新学習指導要領に位置づけられています。さらに義務教育期間だけでなく高等学校や大学における多様な社会教育や研究活動も重要な意味を持ちます。また地域においても大地と地域の産業や経済とのつながりを学び郷土への誇りを高め、定住や地域の持続可能な開発のために活動する意欲高揚につながります。

これに加え伊豆半島では防災という観点から地震、火山や風水害などの自然災害の教訓を次世代に継承する取り組みが必要です。教育活動においては、これまでも「小中学生のためのジオ学習」テキストの作成や「教育通信」などジオ学習の取り組みを行っていますが活動地域に偏りがあることから、15市町のすべての地域においてジオパーク学習が活性化するよう、学校や教育委員会、社会教育施設とも積極的に連携していきます。

### 2-2 教育部会

教育部会は教育活動に携わるジオガイドや学校教員、教育分野の研究者、教育支援機関（ESD活動支援センター、ユネスコ・アジア文化センター）メンバーで構成されています。2017年（平成29年）より教育部会が中心となり方針設定や検証、教育用の素材として児童生徒向けのマンガ「伊豆半島のひみつ」の配布、教育ジオガイド養成の検討などを行ってきました。2019年（平成31年）には「小中学生のためのジオ学習」のテキストも作成しました。このテキストは各小中学校、各市町教育委員会へ配布し環境教育のほか郷土学習、防災教育などジオパークを活用した学習に用います。またアクティブラーニングができるように配慮し、特に小学校のジオ学習には好評なテキストとして活用されています。今後も教育プログラム用教材の充実によって、小中学校生が楽しくジオパークを学べる環境づくりに取り組むとともに高等学校や大学とも連携し、より深い学びができるように協働して取り組みます。

### 2-3 小学校

小学校におけるジオ学習は、5、6年生の理科の単元で扱われます。また、総合的な学習の時間でも活用されることが多くあります。ジオというと石や地層の学習と取られがちですが、大地に根ざした産業や文化、歴史も大切なジオ学習であり、自分たちが住む伊

豆がどんな場所かを学んでいます。子どもたちの感想の中に、「この学習で、私は普段見慣れている景色や風景の見方が変わりました。自慢できる町に住んでいるのですね。」とあるように、実際にその場に行つての大地の学習は子どもたちの心に残り郷土愛を育んでいます。

小学校におけるジオ学習は、子どもたちが自分の住む伊豆半島を知りさらには故郷に誇りをもつきっかけとなるものです。まだ地域による取り組みの差がありますが、今後学校での教育内容と連携するプログラムを作成するなど伊豆半島全域でジオ学習が展開されるよう取り組みます。

## 2-4 中学校

中学校におけるジオ学習は、1年理科の「身近な地形や地層」、「地層の重なりと過去の様子」、「火山と地震」、「自然の恵みと火山災害・地震災害」、2年理科の「自然の恵みと気象災害」で直接的に学んでいます。そのほか社会科の「地理的分野」や「歴史的分野」で日本や世界各地の自然環境や資源・エネルギーと産業の関係を地域の特徴と結びつけて学んでいます。またこれらで学んだ知識を応用する場面として、総合的な学習の時間を使った体験や課題解決に向かう学びが行われています。

しかし、一部の学校で行われている地域学習や防災教育を除いて中学校の現場ではジオを通じた学びから郷土愛や地域課題の解決に結びつくようなアクティブラーニングは行われていません。今後は「小中学生のためのジオ学習」のテキストを活用して、熱意を持ってこのような学習に取り組む学校を拠点として持続可能な社会の創り手を育てる教育（ESD）に取り組む学校を増やします。

## 2-5 高等学校

高等学校では、学校ごとに様々な課程の中でジオパーク学習が行われています。学習の専門性を活かした調査や商品開発の具体例では、韮山高校の地学分野における課題研究、熱海高校の避難経路についての住民ワークショップ、沼津商業高校の地元企業とジオパークに関係した商品開発があり、伊豆半島ジオパークの普及に繋がりました。このほかにも部活動を通じた地域の魅力発信として、韮山高校写真報道部と伊豆総合高校の写真部は伊豆箱根鉄道が運行する「ジオトレイン」にジオサイトの写真と解説文を組み合わせた掲示物を作成しました。

このように、高等学校の段階ではジオパークについて学ぶというだけでなく、学んだことを発信し、地域に還元する活動へと発展させられます。そこで伊豆半島ジオパークでは、高等学校と地域を結び付け、協働活動を行う支援をしていきます。授業で行う専門的

な知識の供与、探究活動や教科横断型の学習に向けた支援、ESD に則した学習活動についても柔軟に実施していきます。

## 2-6 大学

これまで静岡県内の大学が実施する伊豆半島ジオパークを題材とした授業や研究への協力を行ってきたほか、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」に参画し、ジオサイト等を活用したフィールドワークや地域の担い手作りの支援を実施してきました。今後も管内の各大学との相互連携を進め、戦略的パートナーシップの構築に努めます。

## 2-7 一般市民

ジオカフェやジオ検定、ワークショップをはじめとした企画やジオツアーの開催によって「伊豆半島ジオパーク」の認知度は高まりました。ジオパークは、市民ひとりひとりの参加によって成立するものです。したがってこの人の輪をより大きく、継続的に実施することが大切です。したがって、今後はジオパーク活動のさらなる普及と住民の参加機会を増やしていきます。

## 2-8 目指す姿（ビジョンの可視化・共有）

幼少期から継続的、体系的に伊豆半島を学び、その恵みを享受しながら生活し生まれ育つ伊豆という土地への郷土愛を育み、さらに課題解決の能力を涵養していきます。同時に伊豆半島の成り立ちから、伊豆半島が抱える自然災害のリスクを理解し、来るべき災害での減災を達成します。さらに生涯学習を通して、すべての世代へのESDを達成します。

行動計画 2021～2025年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
教職員向け ジオパーク学習研修	ジオパーク推進協議会 構成市町教育委員会	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	5年間で 5回以上開催
生涯学習講座の実施	ジオパーク推進協議会 構成市町教育委員会	年1回 以上	年2回 以上	年2回 以上	年3回 以上	年3回 以上	5年間で11 回以上実施。
高校や大学との連携 事業の実施	ジオパーク推進協議会 高等学校/大学	年1校 以上	年1校 以上	年1校 以上	年2校	年2校	5年間で7校 以上と実施
ジオパーク学習視察 受入れ	ジオパーク推進協議会 ジオガイド協会 ジオガイド		2回 以上	3回 以上	4回 以上	4回以 上	5年間で 13回以上
教育WEBサイトでのコ ンテンツ作成	ジオパーク推進協議会	新規1 コンテ ンツ作 成		新規 コンテ ンツ作 成		新規 コンテ ンツ作 成	WEB閲覧件数 前年比10% 増
域外出前授業の実施	ジオパーク推進協議会	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	5年間で 5回以上開催
域内小中学校向け出 前授業の実施	構成市町教育委員会 ジオパーク推進協議会 ジオガイド	新規 1市町	新規 1市町	新規 1市町	新規 1市町	新規 1市町	全15市町で の実施



### 3. ツーリズム・地域振興

#### 3-1 基本的な考え方

伊豆半島ジオパークでは「ジオツーリズム」を推進しており、大地の遺産を含む自然環境や地域の歴史文化をジオパークのサイトに認定し、大地の遺産の保全、認定ジオガイドの育成、拠点施設の設置、情報発信、ジオカフェの開催を通じて地域の歴史・文化資源の掘り起こしを行いました。既に実践している「ジオツーリズム」、さらに今後推進する「エコツーリズム」を両輪として持続可能な観光地域づくりを目指し、地域振興を推進します。

認定ジオガイドや準ジオガイドの皆さんによる各種ジオツアーは観光施設やビジターセンターで取り組まれています。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、万全を期した対応を心がけています。今後は大室山などにてジオサイトの保全と活用を両立させる魅力あるジオツアーの取組みをはじめ、今後環境省のもとで推進する「エコツーリズム」を両輪として持続可能な観光地域づくりを目指し、地域振興を推進します。

#### 3-2 SDGs の実現に向けて

「ジオツーリズム」や「エコツーリズム」の推進に際しては、今まで以上に地域の自然観光資源や文化資源を保全し、次世代への継承を図ります。持続可能な地域経済を確立するため、美しい伊豆創造センターとも連携を密に、観光業におけるサービス生産性の向上に努め、関係者間の一層の連携強化による質の高い観光地形成に取り組めます。

伊豆半島ジオパークの活動は、「誰もが住み続けたいと思える持続可能な開発を通じた地域づくり」を目指すものです。ジオパークエリア内外でパートナーシップやネットワークを強化し、認定ジオガイドの育成およびスキルアップ支援、ジオカフェ等地域密着型イベントの開催、地域資源の見直し、誰もが楽しめる新しいジオツアー開発によって SDGs の実現に取り組んでいきます。

#### 3-3 ジオガイドの養成

伊豆半島ジオパークは、2011年（平成23年）3月の伊豆半島ジオパーク推進協議会の発足後直ちにジオガイド養成講座を開催、現在は隔年で開催し、194名のジオガイドが認定されています。様々な活動を通じ伊豆半島ジオパークの解説や教育、普及啓蒙に取り組んでいます。ジオガイドがジオツーリズムのみならず教育現場やジオリアやビジターセンターの運営や、地域におけるジオパーク活動の推進役となっており、これらの活動は国内で高い評価を受けています。

今後はこれまでの活動を踏まえつつ、研修や他地域のジオパークガイドとの交流を通

じ、ジオガイドの質の向上に取り組みます。特にこれからの養成講座や更新講習は SDGs の実践やインバウンドを意識しつつ、ガイドとしての基本資質である「解説」能力の向上をはじめとした資質改善に取り組みます。

### 3-4 ビジターセンターを拠点としたガイドツアー造成

伊豆半島ジオパークは、構成 15 市町により整備運営されるビジターセンターにおいて来訪者へのジオパークの楽しさやその地域ならではのジオパークの見どころを紹介し、情報発信を行っており、半島全体における可視化に貢献しています。

特にジオガイドが常駐しているビジターセンターでは独自の企画展や予約なしで参加できるジオツアーを催行し、予備知識のない人にもジオパークの魅力を伝え、評価されています。さらにビジターセンターを相互連携して相乗効果を生み出すネットワーク化に取り組むことが喫緊の課題でもあります。

### 3-5 エコツーリズム推進全体構想の認定によるエコツーリズム推進

身近な環境の保護意識の高まりや自然と直接触れ合う体験ニーズの高まりをうけ、2008 年（平成 20 年）4 月にエコツーリズム推進法が制定されました。この法の目的は観光旅行者が自然観光資源について知識を有する者から案内・助言を受け、自然観光資源の保護に配慮しつつ自然観光資源とふれあい知識及び理解を深めることです。伊豆半島ジオパークが目指すジオツーリズムと合致することから、伊豆半島ジオパークでのエコツーリズム推進全体構想の策定に取り組んでいます。構想の基本方針はみんなに嬉しいエコツーリズム、自然の保全と活用のバランスがとれたエコツーリズム、人と自然の関りを理解し深めることができるエコツーリズムを目指すもので、現在関係省庁との事前協議を行っています。今後構想認定申請については、本事業の先進地に学び、構成市町やジオガイド、アクティビティ事業者、交通事業者、観光関係者とも連携して役割分担を明確にしつつ、伊豆半島ジオパークの新たな観光振興に寄与していきます。

### 3-6 目指す姿

伊豆半島ジオパークでは 2019 年・2020 年度（平成 31 年・令和 2 年度）に採択された環境省地域循環共生圏事業を活用し、伊豆半島におけるサステナブルツーリズムの推進に着手しました。その中で「サステナブルツーリズムポリシー／ビジョン（案）」を定め、私たちが目指す姿を具体化します。

今後は、特に以下の 4 項目を踏まえ、伊豆半島ジオパークとして取り組みます。

#### ① 火山で来た伊豆半島の大地とそこで育まれてきた動植物・文化を尊重します

伊豆半島に暮らす人、訪れる人、すべての人が自然環境や地域文化に敬意を払うことを

意味します。これは伊豆半島が持つ自然環境と地域文化の価値を損なわないためです。

## ② 伊豆半島の自然を保全し文化を継承します

開発による環境破壊および文化の喪失を防ぎます。これによって環境保全に対する意識啓発を行うと同時に資源管理を徹底します。地域資源があつてこそその観光だからです。

## ③ 人・モノ・カネ・情報の域内循環を向上させます

伊豆半島北部の都市と中南部の観光地間の交流を促進します。新たな試みとして、半島内住民向けジオツアーの開催などマイクロツーリズムを興し、自立的発展を促します。

## ④ 責任ある旅行者が伊豆半島の自然と文化を満喫できる時間と空間を提供します

観光公害は現代観光が解決すべき課題です。そこで伊豆半島ジオパークでは自然環境、地域文化、地域経済に配慮した行動を取ることができる責任ある旅行者を励行し、彼らをターゲットとした旅行商品の開発に着手します。

行動計画 2021～2025 年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
ジオツアーの実施	伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 民間事業者	ツアー 参加者 12,000 人 規模維持	ツアー 参加者 13,000 人	ツアー 参加者 14,000 人	ツアー 参加 15,000 人	ツアー 参加者 16,000 人	ツアー 参加者 16,000 人
サイトの保全と活用・ 解説板整備 (可視化・多言語化)	構成市町・民間事業者 地域活動団体等 (ジオパーク推進協議会も協力)	新設及 び改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設・改修 5年間で 5箇所以上
環境省 エコツーリズム推進 基本構想に基づく事業	ジオパーク推進協議会	本申請 /認定	事業 実施	事業 実施	事業 実施	事業 実施	ツーリズム 参加者数 前年比 +10%
ジオガイドの養成講座	ジオパーク推進協議会 (ジオガイド協会委託)	実施	更新 講習	実施	更新 講習	実施	認定 ジオガイド 総数 300 名
長期滞在型ジオツアー の商品企画	ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 美しい伊豆創造センター		商品 造成 販促	商品 造成 販促	商品 造成 販促	商品 造成 販促	商品造成数 5年間で 10 本
ジオストーリー活用 商品の高付加価値化	ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 美しい伊豆創造センター			商品 造成 販促	商品 造成 販促	商品 造成 販促	商品造成数 5年間で 10 本
公式ガイドブック等 の作製・改定	出版社 監修：ジオパーク推進協議会				改訂版 発行		2000 部 販売
ジオ関連新商品の 開発・情報発信	ジオパーク推進協議会 協議会会員 民間事業者			開発 情報 発信	開発 情報 発信	開発 情報 発信	商品開発・ 発信数 5年で 10 本

## 4. 災害リスクの軽減

### 4-1 基本的な考え方

静岡県、伊東市、伊豆市の地域防災計画には「伊豆半島ジオパーク推進協議会と連携し、観光客等に対して火山に関する防災思想と防災対応を広く普及・啓発する」と明記されています。伊豆半島ジオパークのサイトには、災害遺構や記録を災害サイトとして設定しています。具体的な防災対応としては、新たに伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会（平成30年設立）にメンバーとして参画、自治体防災職員を対象としたジオパークの災害サイトの視察、2019年（令和元年）7月には1989年の伊東沖海底噴火から30年の節目であることを踏まえ災害記憶の継承を目的としたシンポジウムを行った。近年全国各地で多発する自然災害を見るにつけ、災害の忘却、風化を防ぎ、啓発することはますます重要になると思われます。

伊豆半島ジオパークでは独自のサイト区分として14の災害サイトを指定し、災害遺構や津波到達碑、防災施設など、現地で本物にふれながら防災教育に取り組んできました。引き続き各種災害リスクに関する知識や、今後起こりうる災害に思い致す能力を養うために、関係機関と連携して災害サイトを活用した防災普及に努めるとともに、防災文化の発信や人材育成を進めていきます。

### 4-2 SDGs 指標の実現に向けて

伊豆半島はプレート境界付近に位置し、活発な地震・火山活動が繰り返されてきました。伊豆半島は過去にも、今後も、大きな地震被害を起こしうる想定地震として、東海地震、東南海地震があり、加えて伊豆東部火山群による群発地震も想定されます。また海底での地震による津波も想定され、伊豆半島の沿岸部では防災まちづくり活動が行われています。また伊豆半島は豊かな自然資源を有する反面、急峻な地形と降水量が多い地域であることから水害や土砂災害も頻繁に発生しています。

ジオパークの活動を通じて、人々は大地のなり立ちを学ぶことができます。その過程で過去の災害に関する知識や、将来起こり得る災害に備えることもできます。小学生から社会人までがジオパーク活動を契機に正しい防災知識を習得することが災害リスクの軽減につながります。国や県、構成市町の防災部局とも連携を密に、地球環境を意識した取り組みを行います。

### 4-3 目指す姿

自然災害のリスクから私たちの生命や暮らしを守り、生活を続けていく上で重要なのが“自助”、“共助”、“公助”<sup>注15)</sup>の3つの“助”とされ、この3つがバランスよく機能す

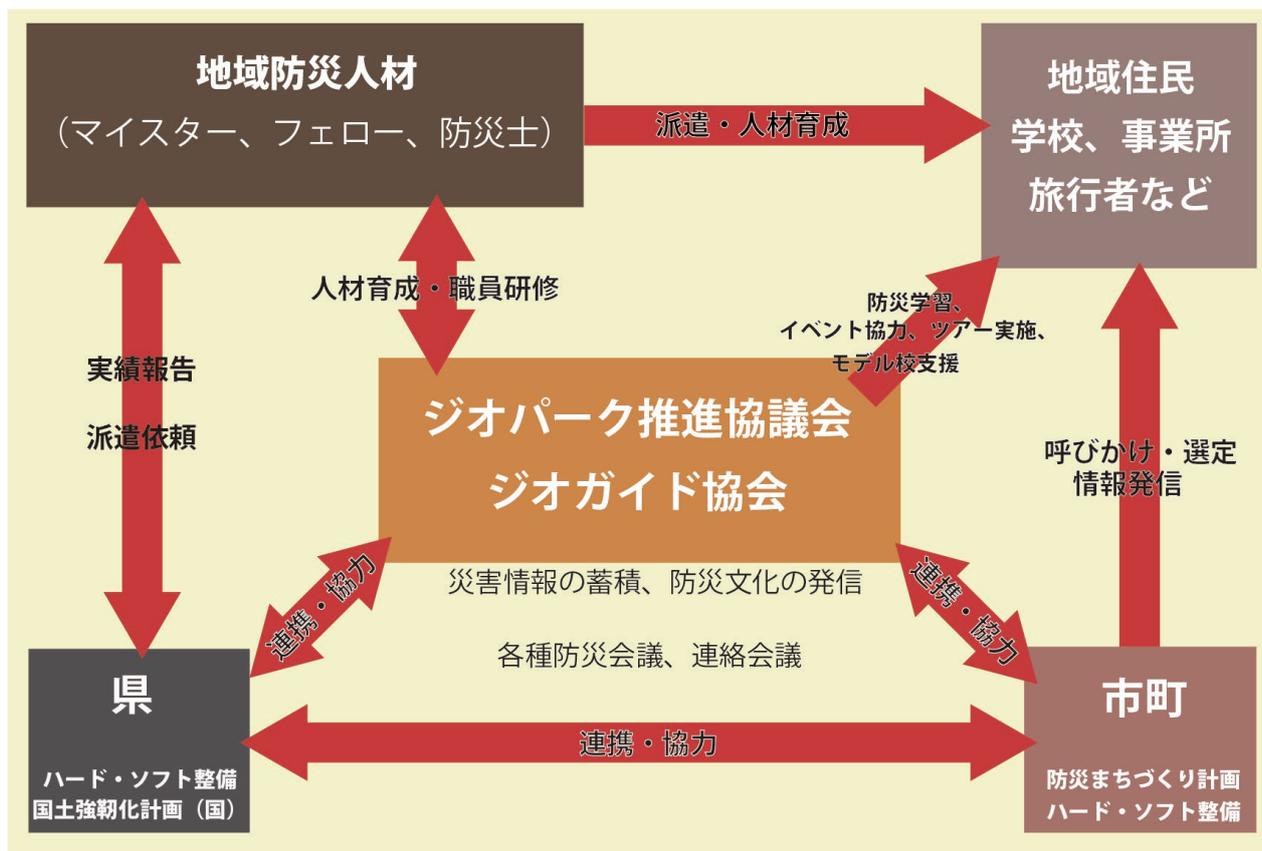


図5-2 災害軽減に対する取組の相関

ることで災害リスクの軽減につながります。そこで伊豆半島ジオパークでは防災教育の普及や人材育成、災害記録・証言等の目録化とジオツーリズムへの活用に取り組み、誰もが安心・安全に暮らせる伊豆半島の実現を目指していきます。

注 15) 自助とは住民ひとりひとりが豊かな生活を送るために努力すること。共助とは近隣の住民等が豊かな地域づくりに協力・協働すること、また公助とは法律や制度に基づき、行政などがサービスを提供することです。

行動計画 2021～2025 年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
災害サイトを活用した防災学習の推進	ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 構成市町各学校	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	毎年1回以上5年間で5回以上実施
防災普及啓発イベント、展示会の実施	ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 連携企業 構成市町 ビジターセンター	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	毎年1回以上5年間で5回以上実施
伊豆半島防災(減災)文化の情報発信	静岡県・構成市町 ジオパーク推進協議会	実績集約	紹介ページ整備	情報蓄積 情報発信	情報発信 国際交流	情報発信 国際交流	サイト訪問者数 前年比+10%

災害サイトを活用したツアー造成・実施	ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 美しい伊豆創造センター	ツアー 企画 作成	ツアー 造成 3回 以上	ツアー 実施 3回 以上	ツアー 実施 3回 以上	ツアー 実施 3回 以上	ツアー参加者 前年比+10%
災害記録のデジタルアーカイブ化・公開	静岡県・構成市町 ジオパーク推進協議会 伊豆半島ジオガイド協会 ジオガイド 地域住民	実施準備	データ 収集	データ ベース 構築	公開・ 運用	運用	収録データ件 数前年比+10%
防災教育モデル校の支援	ジオパーク推進協議会 学校、地域住民、静岡大学	実施校 調査	1校指 定	1校指 定	1校指 定	1校指 定	毎年1校指定



## 5. 運営体制の強化

### 5-1 基盤整備強化の基本的な考え方

ジオパークの活動を推進するためには、継続的に管理運営ができるしっかりとした管理運営組織が必要であることから、15 の構成自治体、交通事業者や地域のメディアを含む 76 団体で構成される推進協議会を発足させ、活動を行っています。会員は以下のとおりです。構成団体は引き続き、担う役割を再認識し分担し活動に取り組みます。

ジオパーク活動の基本は、地域住民主導のボトムアップ型の取り組みです。今後もこれを念頭に、住民参画の仕組みを整え、様々な分野の関係者が議論の場を可能な限り設定していく必要があります。引き続き、伊豆地域の地域住民に支えられるジオパーク活動の運営体制の確立により、持続的なジオパーク活動が伊豆半島を元気な地域として持続できるよう取り組みます。

### 5-2 運営組織：伊豆半島ジオパーク推進協議会

推進協議会は、総会、幹事会、事務局、専門部会により構成されます。総会は原則として年 1 回、各団体の代表者で開催し、規約の制定・改廃、事業計画・予算等の決定やその他重要事項の審議を行います。幹事会は総会に諮る案件の検討や事業計画の執行を

表 5-2 伊豆半島ジオパーク推進協議会会員一覧（令和 3 年 4 月 1 日現在）

**【地方自治体】** 静岡県、沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町

**【会員団体】**

17 観光協会（沼津、戸田、熱海、三島、伊東、下田、伊豆、伊豆の国、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、ながいずみ観光交流協会、清水町ゆうすい未来機構、堂ヶ島温泉旅館組合

5 商工会議所（沼津、熱海、三島、伊東、下田）

11 商工会（沼津、伊豆、伊豆の国、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町）

4 ガイド団体（天城自然ガイドクラブ、伊豆半島ジオガイド協会、伊豆半島ジオマリンクラブ、ジオテラス）

まちこん伊東、三島建設業協会、下田建設業協会、伊豆急ホールディングス株式会社、伊豆箱根鉄道株式会社、伊豆箱根バス株式会社、東海自動車株式会社、静岡県タクシー協会伊豆部会、株式会社伊豆バス、一般社団法人ふじさん駿河湾フェリー、静岡県道路公社、静岡銀行、三島信用金庫、沼津信用金庫、株式会社伊豆急ケーブルネットワーク、堂ヶ島マリン、堂ヶ島レジャー、静岡ガス株式会社

**【学術顧問】** 静岡大学防災総合センター

**【顧問】** 国土交通省沼津河川国道事務所、気象庁静岡地方气象台、林野庁伊豆森林管理署、環境省富士箱根伊豆国立公園管理事務所

担い、事務局は具体的な活動の執行とジオパークの窓口機能を担います。こうした活動を専門的見地から補佐する専門部会は教育部会を設置しています。

事務局は、伊豆半島の中心に近い伊豆市修善寺に設置しており、令和3年6月現在10名の職員で運営されています。事務局では3名の研究員（地質学・地理学・社会学）を専任雇用する体制を敷きジオパークにおける研究を実施するとともに、ジオパークの各サイトの解説や解説板製作、教育、普及活動を担当します。

ユネスコ世界ジオパークの運営は国の法令下で法的位置づけのある団体による管理運営がユネスコによって定められています。現在、推進協議会は任意組織であるため、推進協議会では一般社団法人美しい伊豆創造センターへの統合による法人化に向けた協議を行っており、2022年度（令和4年度）からの法人化移行の基本方針が2020年（令和2年）12月開催の伊豆半島7市6町首長会議で了承されました。

伊豆半島ジオパーク推進協議会は、法人化移行後には一般社団法人美しい伊豆創造センターのジオパーク推進部門に移行しますが、法人化移行後も研究活動や国際交流に取り組むための専門職員の確保や、ジオパークがエリア内の交通事業者や宿泊事業者、アクティビティ事業者など事業者とのパートナーシップ協定の締結により、幅広く安定した活動を目指します。

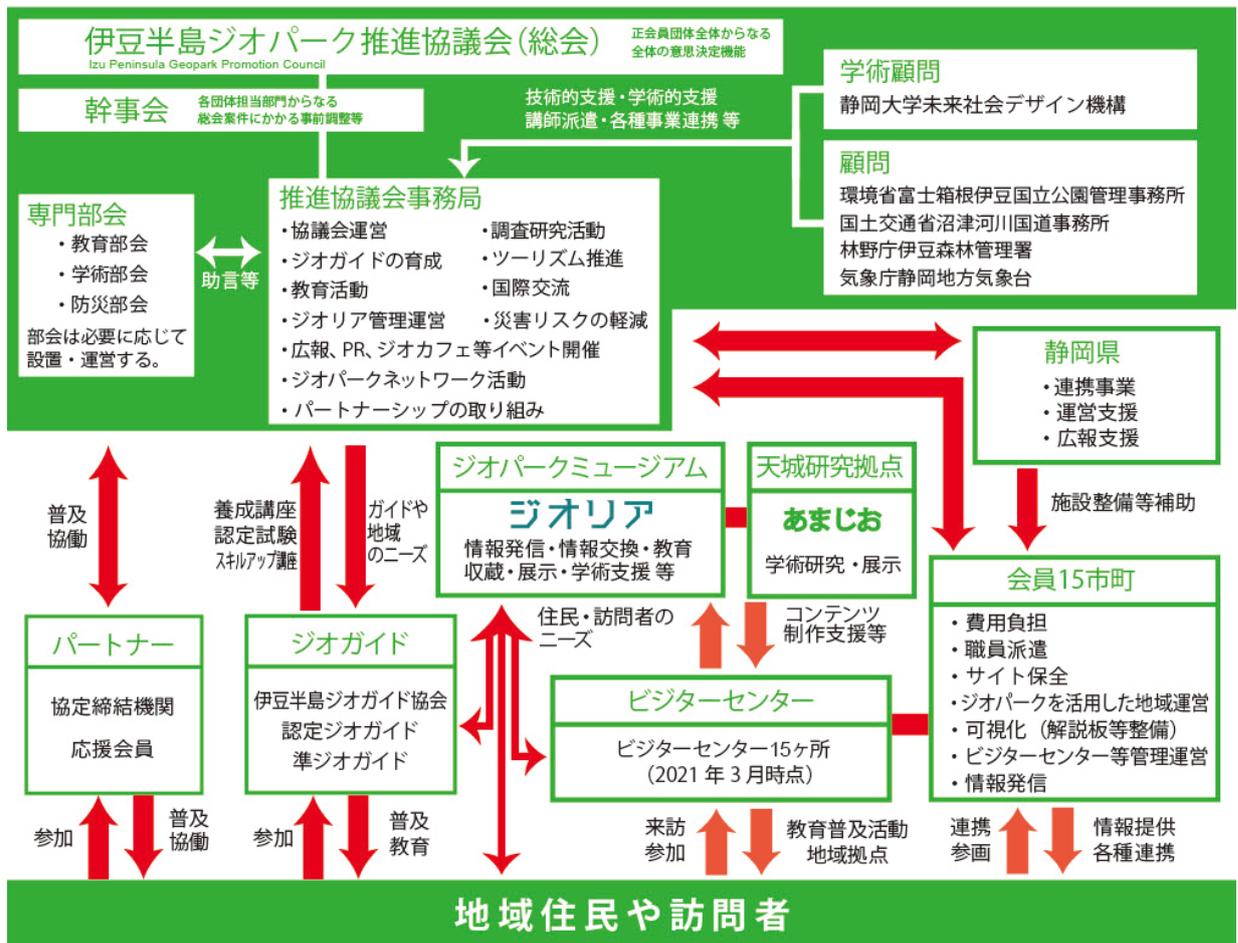


図5-3 伊豆半島ジオパーク推進協議とステークホルダーとの関係模式

### 5-3 協議会をサポートする組織・仕組み

伊豆半島ジオパークでは、静岡大学からジオガイド養成、地質学に関する普及講演をはじめ支援を受けており、その他の大学との協働も図っているところです。今後も、研究保全活動、教育活動、観光開発、防災活動について相互連携と、地域住民主導のボトムアップ型の活動を基本にジオパーク活動へのサポート強化を図ります。

### 5-4 ジェンダーの平等にむけた取り組み

伊豆半島ジオパークは2018年（平成30年）の世界認定の際、女性の役割向上について勧告がありました。推進協議会の事務局職員は毎年交代しており、一時期は女性がほぼ半数を占めたこともありましたが、2021年（令和3年）4月時点では事務局職員10名中1名が女性です。したがって職員におけるジェンダーバランスの是正を図るべく、職員派遣をお願いしている市町には女性職員の派遣考慮を要望しています。なお、ジオパーク活動の主体を担う伊豆半島ジオガイド協会では、多くの女性ジオガイドが活動しています。今後も引き続き様々な活動の場において女性の役割向上に取り組み、ジェンダーの平等を達成します。

### 5-5 財政計画

推進協議会は独立した予算・財務管理を行っています。主な収入は各会員からの会費（主に15の自治体）と県補助金等であり、ガイド養成や広報普及をはじめとした事業や直接雇用の人件費などの運営費に充てています。エリア内にある15のビジターセンターの整備運営やサイトの解説板、遊歩道、トイレ、駐車場などのハード整備は、2011年度（平成23年度）以降、各市町や民間事業者が静岡県からの補助金を活用しながら設置しています。

伊豆半島ジオパーク推進協議会の年度運営予算額推移（単位：千円）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
運営費	147,840	76,680	77,700	72,591	81,494	81,557

2015年度（平成27年度）に中央拠点施設である「ジオリア」を設置しました。今後も解説版の未設置サイトの解消に向け各市町と協力して設置するとともに、ネットワークへの貢献を含め安定した業務運営のための必要な予算を確保について静岡県及び構成市町に要請していきます。

伊豆半島ジオパーク推進協議会の運営予算計画（単位：千円）

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
運営費	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
うち市町負担	36,350	36,300	36,250	36,200	36,200
うち県補助	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000

## 5-6 自主財源の確保による財政基盤の強化

これまで、ジオパーク活動は静岡県や構成市町の財政負担により活動がなされてきました。ジオパーク活動を長期間継続するためには、独自の財源確保について取り組む必要があります。自主財源の確保については、基本計画や行動計画に基づき、独自の事業展開により、活動により地域の振興への波及効果を明確になることが重要です。

ジオパーク独自の活動資金の確保対策を進め、財政基盤の強化を図ります。また、美しい伊豆創造センターとの連携によりジオパーク活動への支援を目的とした企業版ふるさと納税制度による財源確保にも取り組みます。

## 5-7 施設管理運営

### 5-7-1 中央拠点施設「ジオリア」



図5-4 ジオリアにおける小学生のジオ学習 および 2021年企画展の様子

伊豆半島ジオパークの中央拠点として、2016年（平成28年）4月に伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」をオープンしました。訪問者への普及広報活動、サイトの解説、教育活動、に活用しています。この施設は伊豆半島のみならず国内や世界のジオパークに関する情報収集も行い、各ビジターセンターへの情報発信機能を有するとともに、各ビジターセンターから地域の情報を収集する機能もあります。

中央拠点施設にはジオガイドが常駐し、展示室をはじめ、ライブラリなどの教育機能、事務局、ガイドの拠点が併設されています。さらに、岩石標本の調製（岩石カッター等）も可能で、展示物の随時更新や、内外の研究者との協働を行っています。施設の運営にあたっては、ジオパークに関心を持つ人々が参加、交流し、とも

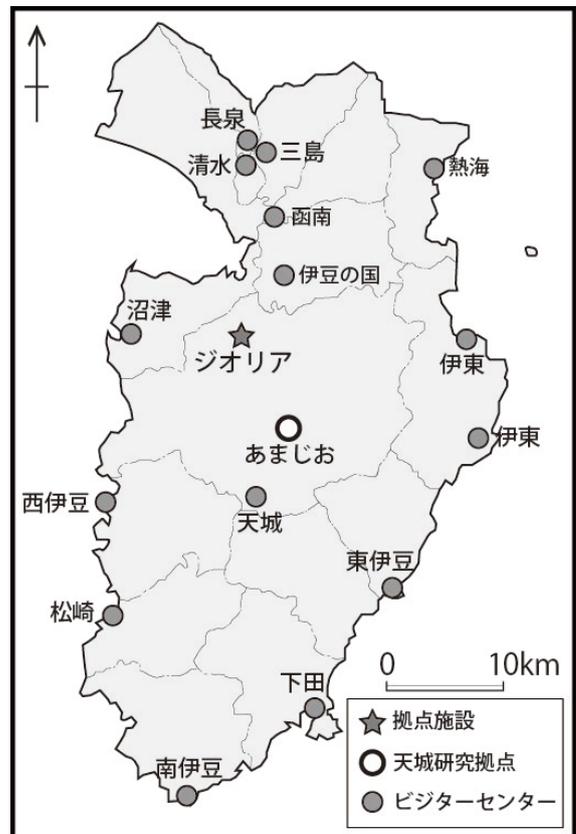


図5-5 ジオパーク活動拠点の立地

にジオパークを作り上げていくために役立つ施設であることを心掛けています。中央拠点施設として、すべての年齢層をターゲットに、様々な切り口から伊豆半島を学べるワークショップイベントを定期的を開催しています。

今後も本施設のコンセプトである46億年前に誕生した地球が姿を変え、火山活動やプレート運動によって形作られた伊豆半島の歴史の旅を誰もが理解でき、楽しめるよう企画展や、常設展示の更新に計画的に取り組みます。

### 5-7-2 ビジターセンターの整備と運営・ネットワーク化

伊豆半島ジオパークは面積が広く、訪問者の入口も熱海、函南、三島、長泉、沼津そして海路のある熱海、伊東、伊豆と複数あります。拠点施設である「ジオリア」だけでは様々な来訪者へのジオパークの情報を伝えきれません。そこで、訪問者に対して効果的に情報伝達するために、原則として各市町（計15市町）に1か所ずつ、周辺地域の情報提供を目的とするビジターセンターを設置しています。ジオリアと各ビジターセンターは、互いに機能を分担しつつ、情報交換を行えるようネットワーク化し、どのエリアへの訪問者に対しても、楽しみながら伊豆を学べる場を提供し、各ビジターセンターで共有できるような仕組みを目指します。特に範囲の広い伊豆半島ジオパークにおいては、多くのビジターセンターは来訪者への可視化にも寄与しており、積極的な情報発信活動によりさらに認知度向上を図ります。

### 5-7-3 あまじお 利活用計画

2019年（平成31年）4月、伊豆市は旧湯ヶ島小学校を天城湯ヶ島コミュニティ複合施設として再整備しました。施設内には静岡大学との共同研究拠点施設としてジオパークが利用する「あまじお」も整備されました。静岡大学も伊豆半島ジオパークと連携した研究成果を提供し、伊豆半島ジオパークの研究ハブ的な機能を有する施設として利活用を図ります。伊豆半島の地質、生態、文化等のジオパークを構成する要素の研究拠点として

表5-3 ビジターセンター一覧

ビジターセンター名	開設年月日
長泉ビジターセンター (コミュニティながいずみ内)	2016.4.1
三島ビジターセンター (三島総合観光案内所内)	2013.7.1 2017.6.1 移転
沼津ビジターセンター (道の駅くるら戸田内)	2015.4.1
清水町ビジターセンター (柿田川公園わくら柿田川内)	2019.4.1
函南ビジターセンター (伊豆ゲートウェイ函南内)	2017.5.1
熱海ビジターセンター (JR熱海駅ラスカ観光案内所内)	2016.11.25
伊豆の国ビジターセンター (道の駅いずのへそ内)	2015.6.1
ジオポート伊東 (伊東港船客待合所内)	2016.4.21
ジオテラス伊東 (伊豆急行伊豆高原駅構内)	2015.3.22
東伊豆ビジターセンター (熱川温泉観光協会内)	2014.4.1
天城ビジターセンター (道の駅天城越え・昭和の森会館内)	2013.7.7
西伊豆ビジターセンター (こがねすと内)	2016.4.28
松崎ビジターセンター (明治商家中瀬邸内)	2014.4.1
下田ビジターセンター (道の駅開国下田みなと内)	2014.5.1
南伊豆ビジターセンター (石廊崎オーシャンパーク内)	2019.4.1

利活用し、併せてオープンスペースについても来訪者がジオパークの魅力を感じられるような情報発信の強化に努めていきます。

行動計画 2021～2025年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
法人化への移行 （一社）美しい伊豆創造センター統合	方針決定：7市6町会議 美しい伊豆創造センター ジオパーク推進協議会	準備	法人化				法人化による 管理運営
ジオリアの運営	ジオパーク推進協議会 （ジオガイド協会）	実施	実施	実施	実施	実施	目標来館者数 前年比+5%
ジオリア企画展	ジオパーク推進協議会	年3回 開催	年3回 開催	年3回 開催	年3回 開催	年3回 開催	5か年で 15回の企画展 開催
あまじお利活用 【再掲】	ジオパーク推進協議会 静岡大学・伊豆市	協定 締結	セミナー・イ ベント 開催	セミナー・イ ベント 開催	セミナー・イ ベント 開催	セミナー・イ ベント 開催	セミナー・イ ベント参加者 年200名
ビジターセンターの 整備・運営	市町、管理運営団体 協力：ジオパーク推進協議会	管理 運営	管理 運営	管理 運営	管理 運営	管理 運営	目標来館者数 前年比+5%
ビジターセンター 案内表示の多言語化	市町、管理運営団体 協力：ジオパーク推進協議会	ガイドライン 策定	多言語化	多言語化	多言語化	多言語化	案内表示 多言語化率 100%
ビジターセンター (VC)間連携事業	構成市町 管理運営団体 ジオパーク推進協議会	無人VCを含め た連携企画実 施（巡回展） 1回 WSの共催 （技術移転） 1回 交流会の実施 1回	研修 事業 年1回 WSの共同 （技術移 転） 1回 巡回展 連携実施 1回	WSの共同 （技術移 転） 1回 WSの共同 巡回展 連携実施 1回	研修 事業 年1回 WSの共同 （技術移 転） 1回 巡回展 連携実施 1回	半島内VC をネット ワーク化、 VC全体の 質向上	研修 事業 年1回 有人VC 連携企画実施 1回 WSの共同開催 （技術移転） 1回

## 6. ネットワーク活動の強化とパートナーシップ



### 6-1 基本的な考え方

ネットワーク活動はジオパークの活動の特徴のひとつです。ネットワーク活動にはサイト間、ジオリアと各ビジターセンター、地域住民や地域資源をつなぐネットワークなど様々な取り組みがあります。伊豆半島ジオパークでは平成27年にジオパークの取り組みを支援する、企業向けの応援会員制度と個人向けのサポーター制度を創設し、連携した活動の端緒としました。このほかジオパークではそれぞれの地域の活動事例やアイデアを持ち寄り、互いに学び合うことで、相互の活動促進や新たな価値の創造に取り組んでいます。こうした取り組みに積極的に関与して、連携活動に取り組みます。

### 6-2 世界ジオパークへの貢献

2014年（平成26年）の第6回 GGN 国際会議（カナダ）への参加以降、毎回の GGN 国際会議および APGN シンポジウムに参加して来ました。そこでは伊豆半島の事例を発表し、実践例を共有したり、研究報告を行ったりしています。特に、第8回 GGN 国際会議（イタリア、アダメロブレレンタ）においてジオパーク推進協議会会長（伊豆市長）が口頭で講演。地質遺産の保全を意図したものの結果的に景



図5-6 菊地会長による GGN 大会での講演

観を破壊し、ジオサイトに認定できなかった事例を責任者の立場から自戒を込めて報告しました。失敗事例を共有する姿勢に世界各地のジオ関係者から高い評価を得ました。このほかシンポジウムでは質疑に積極的に関与、実質を伴う国際交流を実施しています。また2017年（平成29年）にはユネスコ主催のレスボス集中研修に研究員を派遣、ユネスコ/GGN 諮問委員らとも積極的に意見交換を行って理念を持ち帰り伊豆半島内で共有したほか、伊豆半島での実践例をジオパーク準備地域へ紹介して交流の端緒としました。

今後も責任ある世界ジオパークのメンバーとして、伊豆半島ジオパークの優良事例を発信するとともに、世界ジオパークの優良取り組み事例からも学ぶことを意識した取り組みを強化します。またジオパークが相互に学び合う活動理念に基づき、ユネスコの世界認定、再認定にあたり研究員を審査員として派遣します。また継続的に派遣できる体制を構築します。

### 6-3 アジア地域でのジオパーク活動

#### 6-3-1 インドネシア、チレトゥー—パラブハンラトゥユネスコ世界ジオパークと

## の交流

静岡県と姉妹提携を持つインドネシア、西ジャワ州には伊豆半島と同時にユネスコ世界ジオパークに認定されたチレトゥーパラブハンラトウジオパークがあります。これまで、先方ジオパークの運営者を技術研修で招へい、インドネシアで実装できることを主眼に置いた解説板、電子地図の作製、サイトの保全にかかる技術移転を実施し、貢献をしました。また、資料を交換して相互のミュージアムで展示を行っています。2019年（令和元年）には両ジオパーク間で協力に関する覚書きを交わしました。今後も協力協定にもとづいて相互の活動によって学びあい、価値を高めていきます。



図5-7 静岡県庁での協力覚書の締結

### 6-3-2 アジア地域へのジオパーク普及、協働活動

ユネスコジャカルタ事務所主催、アジア太平洋地域のユネスコ担当職員向けのジオパーク研修において、ジオパークにおける教育への適用実践について講師を派遣しました。また複数の機会においてネパールでジオパークに関心のある官吏・大学教員に対して、ジオパーク概念の導入やジオサイト保全の具体的な方法の技術移転を実施し、ジオパーク未実装地域への普及啓発に貢献しました。また韓国のジオパーク準備地域へジオガイドを派遣し、ジオガイド実践事例の紹介を行いました。世界ジオパーク認定後は各国のジオパーク視察を複数受け入れてきました。

このように個別の対応で先方のニーズに合うジオパークの普及や能力支援（capacity building）を重ね、アジア太平洋地域でのプレゼンス強化に努めていきます。

### 6-4 日本ジオパークネットワークへの貢献

伊豆半島ジオパークでは、毎年国内各地で開催される全国大会や全国研修会、中部ブロック研修会等に研究員、職員やジオガイドが積極的に参加して伊豆半島ジオパークの取り組みを報告しています。今後も国内ジオパークとの積極的な交流を通じ、国内各地のジオパークや日本ジオパークネットワーク活動にも貢献していきます。

### 6-5 パートナーシップ活動の強化

伊豆半島ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークに求められるパートナーシップの戦略に基づき、基本的な取り組みとして位置づけている研究と保全、教育活動、地域振興に必要な活動を通じ、ひいてはSDGsの目標達成に貢献すべきであることをその基本的な方針とします。2020年（令和2年）に伊豆半島の活性化、振興に資し併せてSDGsを達成す

ることを目的に、地域のガス会社との間で10年間という長期にわたる包括的な連携協定の締結をしました。伊豆半島ジオパークの資源であるの食材や食文化の理解促進、地産地消の推進、環境理解と防災の普及、地域経済の向上を共同で取り組みます。パートナーシップ戦略は地域への波及効果にもとづいて現在は個別協定を採っています。

伊豆半島ジオパークでは企業向けの応援会員制度があります。ジオパークの趣旨に賛同していることが基準で、持続可能な伊豆半島を作り上げることが活動目的です。ここに所属する企業・団体とは実質的パートナーとして位置付けています。このほかエコツアーリズム全体構想を策定し、サステイナブルツーリズムを推進する事業者やジオガイドのアクティビティを予約できるポータルサイトの開設の準備を進め、ジオパーク内の事業者との協力関係を強化していきます。このほか、世界遺産である「韮山反射炉」との連携・協業、地域内の企業、民間事業者、高校や大学といった教育研究機関、地域内外で地域づくりや環境活動に取り組み各種団体とのパートナーシップの締結を目指し、パートナーシップの構築によるネットワーク活動の推進に取り組みます。

### ＜パートナーシップ協定＞

企業・団体とのパートナーシップ協定締結にあたっては、下記の原則が盛り込まれることに留意します。

- 保全、教育、または、地域振興(活性化)に資すると認められること
- SDGs 達成に貢献できると認められること
- 一過性でなく継続性を持つこと
- 双方にとってメリットがあること

### ＜ネットワーク活動＞

協定締結にかかわらず、個々の企業、団体、教育研究機関、地域づくりや環境保全活動に取り組み各種団体とのネットワーク活動を推進します。その連携にあたっては、上記のパートナーシップ原則に留意して対応します。

行動計画 2021～2025 年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
世界ジオパークへの貢献 国際大会への参加 口頭発表 審査員派遣	ジオパーク推進協議会	参加 派遣	参加 派遣	参加 派遣	参加 派遣	参加 派遣	2025 年、 ユネスコ 審査員派 遣 2 名
チュレトウーパラ ブハラントゥ世界ジオパ ーク(インドネシア)との 相互協力	ジオパーク推進協議会	博物 館で の相 互展 示	学校 教育 での 協力	研修 受入 れ、 相互 訪問	協定 延長 につ いて 協議	学校 教育 での 協力	実質成果 にもとづ く協力協 定の更新 延長
アジア地域へのジオパーク 能力支援、協働	ジオパーク推進協議会	APGN 活動	APGN 活動	適時 受入 派遣	適時 受入 派遣	適時 受入 派遣	視察、教 育旅行の 毎年受入

日本ジオパークネットワークへの貢献	ジオパーク推進協議会	適時参加	適時参加	適時参加	適時参加	適時参加	全国研修会の開催
「韮山反射炉」との相互連携協定の締結と協定に基づく事業	ジオパーク推進協議会 伊豆の国市	企画展 実施  保全・啓発・教育に係る連携活動	企画展 実施  保全・啓発・教育に係る連携活動	企画展 実施  保全・啓発・教育に係る連携活動	企画展 実施  保全・啓発・教育に係る連携活動	企画展 実施  保全・啓発・教育に係る連携活動	2025年度までの連携事業数 10事業
企業や民間事業者とのパートナーシップ協定に基づく事業	静岡ガス株式会社 民間事業者	5事業 実施	5事業 実施	5事業 実施	5事業 実施	5事業 実施	5年間で 25事業
大学との連携事業、協定締結	静岡大学 県内大学等	協定 締結	連携 事業 実施	協定 締結	連携 事業	協定 締結	協定締結 3大学以上 連携事業5 か年で5 事業

## 7. 普及広報・情報発信計画



### 7-1 基本的な考え方

地域住民へのジオパークの理解促進と来訪者への可視化による認知度向上をはかるため、引き続き SNS など多様な媒体を通じた積極的な情報発信活動に取り組みます。

### 7-2 可視化（案内板、解説板の設置）

伊豆半島ジオパークを訪れる訪問者が「今、ジオパークに居るのだ」と認識することは、ジオパーク活動の端緒ともいえます。したがって伊豆半島への玄関口に「ここはジオパークです」ということが明確に分かる通称「ウェルカム看板」の設置は必須です。そこで伊豆半島の玄関口になる三島駅南口、北口には伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク全体を紹介する解説板を設置し、ウェルカム看板の役をなしている。このほかにロータリークラブが熱海、伊東、下田にロードサイド型のウェルカム看板を設置しています。しかしながら可視性や認知度が十分でない点は否めなく、JGC 勧告においても「熱海等ゲートウェイでの視認性向上」が指摘されました。したがってこの点の改善が必須です。



このほかにジオパークにおける可視化を代表するツールが、各サイトに設置の「解説板」である。サイトの成り立ちを簡潔に記述した日英併記の解説板を自治体や地元企業、NPO が既存の観光案内板等と調整を図りながら設置しており、2021年（令和3年）3月末までに141基を整備しました。板面の内容とデザインについては、最新の研究論文や科学的知見に基づいて協議会研究員が作成しています。解説板は景観に配慮した共通のデザインのもと、小学校高学年に分かる解説にするとともに、協議会のWEBサイトへのリンクを記したQRコードを付し、関連情報への誘導をしています。

解説板はすべて英語を併記し、写真やイラスト、地図を有効に使い、分量も限定して理解しやすいよう工夫しています。解説板はウェブサイトでも閲覧ができます。2018年（平成30年）の世界認定後、推進協議会は既存解説にユネスコロゴを付記する更新を順次行っています。ユネスコ世界ジオパーク認定を受けたことで「ユネスコ世界ジオパーク」として、ジオサイトの案内・解説板などについてはユネスコリンクドロゴを添付し、



図5-8 各ロゴ（左から右へ、伊豆半島ジオパーク、ユネスコ世界ジオパーク、GGN、APGN、JGN）

「ユネスコ世界ジオパーク (UNESCO Global Geopark)」であることを明示することが求められています。

またユネスコ世界ジオパークとなったことで、「世界ジオパークネットワーク (Global Geoparks Network=GGN)」及び「アジア太平洋ジオパークネットワーク (Asia Pacific Geoparks Network=APGN)」に加盟したことから、これらのロゴも添付しています。

### ＜民間団体設解説板整備の基本的な考え方＞

民間事業者や地域団体による解説板設置にあたっては、設置解説板を多くの方が見られること、ジオ学習やジオツアーに活用できることを重視し、推進協は次の原則を踏まえて支援します。

設置者負担＝解説板の設置、管理は、構成市町等設置団体が負うことを原則とします。

監修・支援＝ジオパーク推進協議会は、わかり易い内容の解説板整備の助言を科学的知見に基づきデザインを提供します。

### ＜老朽解説板の更新＞

潮風が直接当たる場所に立てられた解説板には劣化が進んでいるものがあります。設置者と協議の上、劣化した解説板を放置することのないように努めます。

### ＜解説板およびウェルカム看板設置の働き掛け＞

重要なサイトやアピール効果が見込める場所に解説板およびウェルカム看板設置による啓発普及効果には大きいものがあります。そうした効果が見込める場所について、管理者に看板設置を働き掛けていきます。

## 7-3 WEBの活用による発信力の強化

ウェブサイトは2017年度（平成29年度）に大規模に改修し、ジオパークの基本情報やみどころ、アクティビティの紹介、イベント情報、各種資料のダウンロードの基本機能を有します。サイトの特徴は見どころを個別に紹介するだけでなく、地域や観察できる現象、テーマ、地質時代などによってタグ付けされ、閲覧者の興味関心によって複数のみどころを次々に閲覧できるようになっています。各みどころ紹介のページには、解説やアクセス情報に加え、安全に見学するための「危険情報」や、より詳細な情報を求める方向けの「学術情報（そのサイトを対象とした論文の紹介）」も掲載しています。また台風などの災害時にはサイトの被害状況も提供しています。

ウェブサイトには1日あたり平均1000ユーザー程度の訪問があります。静岡県内の観光関連サイトの中でも上位のトラフィックを獲得しており、ジオパークの普及や訪問客誘致に繋がっている。SNSはtwitter、Facebook、Instagram、YouTubeを運用しており、イベントの実況や時事マターなど、ウェブサイトより身近でタイムリーな話題提供を行っていきます。

2020年（令和2年）にはオンラインで伊豆半島のバーチャル旅行やオンラインで過去のイベントを体験できる特設ページを設けました。今後もキッズサイトやジオ学習やツアーリズム、地域の活動紹介などウェブサイトのさらなる充実をはかります。

## 7-4 印刷物の作成・更新

### <印刷物の制作/監修>

推進協議会では訪問者や地域住民に向け、伊豆半島の成り立ちや主要サイトを自然・食・歴史などと併せて紹介する「伊豆ジオマップ」を5言語（日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語）で、また訪問客をターゲットに東西南北4エリアごとの「ドライブマップ」を作成しています。これら地図類について、ジオガイドと協力し内容を随時更新してビジターセンターや道の駅、観光・宿泊施設で配布しており、ジオパークの認知向上の強力なツールになっています。

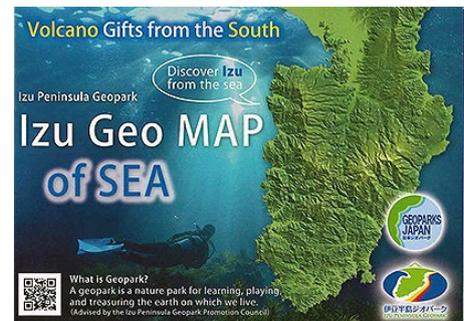


図5-9 伊豆海ジオマップ

このほか、地質や植生などの自然や文学をハイキングしながらセルフガイドツアーで巡ることのできる「フットパスマップ」を作成しました。加えてマリンアクティビティ事業者との協働で、上述の伊豆ジオマップについて海域を対象として海の中のジオを紹介する「伊豆海ジオマップ」を作成しました。これらのアクティビティマップは日本語・英語の2言語で作成、海外からの訪問者にも伊豆のアクティビティを楽しめるようにしています。

教育用の素材として、児童生徒向けにまんが「伊豆半島のひみつ」を作成、伊豆半島ジオパーク内の小学5年生全員を対象に毎年の配布を開始し、ジオパークを活用した学習に用いています。また伊豆を代表する文学作品である川端康成（ノーベル文学賞受賞）著「伊豆序説」を用いて、語り手による朗読のもと伊豆半島を総合的、俯瞰的に紹介するDVD作品を2020年（令和2年）に制作しました。特に地域学



図5-10 「伊豆序説」DVDの1シーン

習に供し、管内すべての学校に配布し、伊豆半島の再理解に広く利用されています。人気のある伊豆ジオマップ、ドライブマップマップは啓発効果も大きく、引き続き継続的に制作していきます。そのほか、ニーズを踏まえつつタイムリーな制作物作成に取り組みます。

### <書籍>

より広範な普及媒体として書籍があります。推進協議会学術顧問の静岡大学小山真人教授によりドローンを用いた空撮写真を使った伊豆半島の地形地質解説「ドローンで迫る 伊豆半島の衝突」が2017年（平成29年）に刊行、一般向けの書籍では令和元年にアトリエ・ロッキー社が、伊豆半島ジオパークのドローン空撮写真集「神々のジオ」を発行しました。2020年（令和2年）には協議会学術顧問である静岡大学災害総合センターが中心となって編著した「静岡の大規模自然災害の科学」が出版、多くのページを伊豆半島の事象に割いています。

2021年（令和3年）3月、静岡新聞社は改訂版公式ガイドブック「伊豆ジオ100」を発行、ジオサイト100カ所について、見どころ、成り立ち、歴史、文化的背景などを紹介しました。推進協が監修にあたりました。

引き続き良質な書籍の発行に努めます。同時に大学・研究機関、民間事業者が取り組む良質な書籍編集を支援していきます。書籍に関しては、発行して終わりとなってしまいうのではなく、広い普及を狙って出版会社による書籍化、流通を視野に入れていきます。

#### **7-5 民間事業者との協働事業**（牛乳小話・ジオトレイン・こども絵画コンクールなど）

2018年（平成30年）夏から函南東部農業協同組合と連携して、200ml入り丹那牛乳のパックにジオ小話を表示する牛乳小話プロジェクトを展開している。200mlパックは年間1000万本以上、主として伊豆地域の学校給食に提供されており、その教育効果は非常に大きい。令和元年にスタートした第2版では、70歳以上のシニア層から作品を公募。同時に高齢者施設の希望があればジオガイドが出向いて作品づくりを支援する出前講座の制度も整え、学校だけでなく高齢者の地域学習、ジオパークの啓発普及も意図した取り組みです。

伊豆急行は、鉄道1編成に各地ジオサイトの写真ポスターを展示し、訪問者にジオパークを紹介するジオトレインを継続的に運行しています。2019年（令和元年）と2020年（令和2年）には伊豆箱根鉄道も1編成をジオトレインとして運行しました。この車両では地元の高校生がジオサイトを題材に制作したステッカーを掲出しており、鉄道会社、高校、推進協議会三者の協力により実現したもので、利用者にタイムリーな情報発信を行っています。

ジオパーク子ども絵画コンクールは、伊豆半島に在学、在住する小・中学生を対象に夏休みを含む時期にジオサイトを描いた絵画作品を募集しコンテストを行っています。ねらいは子供たちが家族でジオサイトを訪問し、ひいては地域を知り、誇りに思う機運醸成にある。2017年（平成29年）から開始し年々応募作品は増え、2019年（令和元年）は200点弱が集まりました。拠点ミュージアム「ジオリア」のほか、ビジターセンター、協賛企業で巡回展示を行いました。

## ＜牛乳小話＞

2019年（令和元年）にスタートした牛乳小話の第3弾では、大木乳業の協力を得て「伊豆牛乳」にも掲載されることとなりました。これによって伊豆地域全域の学校給食にジオ小話の掲載された牛乳が提供されることとなります。今後は概ね2～3年に1度、更新していきます。

## ＜伊豆急ジオトトレイン＞

写真ポスターは劣化により概ね3年に一度、更新していく必要があります。伊豆地域を訪れる観光客へのアピールに有効と判断しており、伊豆急行と連携しつつ更新に取り組んでいます。

## ＜伊豆箱根ジオトトレイン＞

伊豆急ジオトトレインが観光アピールであることに対し、伊豆箱根鉄道のジオトトレインは地元高校生の発表の場としての性格を有しています。引き続き推進協は同社の協力を得て、発表高校との橋渡しの役割を果たしていきます。



図5-8 伊豆箱根鉄道ジオトトレイン内のポスター（伊豆総合高校写真部制作）とジオトトレイン

## ＜子ども絵画コンクール＞

2020年（令和2年）はコロナ禍のためこども絵画コンクールの代替企画として「私たちの住む伊豆半島ジオパーク」として伊豆半島在住者が毎月作品を応募できるデスクトップカレンダー企画を開催しました。三島信用金庫が後援し、半島内の店舗で作品を紹介しました。また共同企画として応募作品の展示会を開催します。こども絵画コンクールは今後も開催しますが、ジオサイトにこだわらないテーマ設定を検討します。

## ＜その他＞

そのほかポスター、ステッカーなどの制作物を掲載できそうな場所がかなり残されています。ただし、制作・掲載にはコストがかかります。啓発普及効果とコストを十分に勘案して、可能性を追求していきます。

## 7-6 マスメディアとの連携強化

報道機関向けのプレスリリースを戦略的に発出しており、例えば2018年度（平成30年度）のプレスリリースは101本で、ユネスコ世界ジオパークの中で世界最多を記録しました。これまで伊豆半島ジオパークは、会員（78団体）、応援会員（150社）、県市町広報担

当、報道機関(77社)、旅行会社(51社)、ジオサポーター(230人)、ジオガイド(189人)に直接プレスリリースを提供する独自の広報ルートを構築しています。ジオパークに関心のある住民には直接情報が届き、加えて頻度の高いメディアでの報道によってジオパークの認知度は向上しています。認知度の向上にしたがってメディアからの出演要請も多数あり、例えば NHK の人気全国番組で伊豆の解説を行うことができ、全国に伊豆半島ジオパークの周知を図ることができました。

自分たちの取り組んだ活動がマスメディアで報道されることは達成感醸成につながるだけでなく、関心を持つ人々の参考にもなります。引き続き積極的に広報に努めていきます。

### 7-7 ジョカフェをはじめとした地域連携イベント

ジオカフェやジオ検定、ワークショップをはじめとした企画の開催によって「伊豆半島ジオパーク」の認知度は高まりました。ジオパークは住民ひとりひとりの参加によって成立するものです。したがってこの人の輪をより大きく、継続的に実施することが大切です。また参画の入口を多様に用意することが肝心です。地質に依らないジオパークの普及として、ジオカフェにて伊豆半島に関するさらに多くの導入を用意し、みんなで動き続ける伊豆半島の一助とします。

行動計画 2021～2025 年度に取り組む事業							
取り組み	実施主体	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 数値目標
サイト 解説板整備（可視化） 【再掲】	構成市町 民間事業者 地域活動団体等 (ジオパーク推進協議会も協力)	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設 及び 改修 3箇所	新設・改修 5年間で 15箇所以上
パンフレット等の 多言語化	ジオパーク推進協議会	作成 準備	新作 作成 1件	作成 準備	新作 作成 1件		5年間で 新規作成 2件
印刷物の作成・更新	ジオパーク推進協議会	準備 活動	新作 作成	準備 活動	新作 作成	更新	新規作成 2件
民間事業者・公共機関 との協働事業	交通事業者 民間事業者 ジオパーク推進協議会	2事業 実施	2事業 実施	2事業 実施	2事業 実施	2事業 実施	5年間で 10事業以上 実施
マスメディアとの 連携強化による情報 発信	ジオパーク推進協議会	プレスリ リース 件数 年間100 件	プレスリ リース 件数 年間100 件	プレスリ リース 件数 年間100 件	プレスリ リース 件数 年間100 件	プレスリ リース 件数 年間100 件	プレスリリ リース件数 5年間で 500件以上
WEBによる情報発信 事業	ジオパーク推進協議会	閲覧者数 年間 35,000 ビュー	閲覧者数 年間 36,000 ビュー	閲覧者数 年間 37,000 ビュー	閲覧者数 年間 38,000 ビュー	閲覧者数 年間 39,000 ビュー	5年間のサイト 閲覧者185,000 ビュー以上
ジオカフェの開催	ジオパーク推進協議会 構成市町・研究者 ジオガイド	年6回 開催	年6回 開催	年6回 開催	年6回 開催	年6回 開催	5年間で 30回開催 全市町開催

## 第3章 活動と評価

---

### 1. 活動評価についての基本的な考え方

---

活動の評価は方針の見直しや戦略的な計画立案に欠かせません。これまでの基本計画に基づく行動計画には目標最終年次の2025年度（令和7年度）の達成目標が示されていることから、定期的な活動の内容と効果を検証し、新たに生じた課題等にも関係者の理解と協力を得ながら改善に向け取り組んでいきます。

一方、外部からの活動評価としては日本ジオパーク委員会（JGC）やユネスコによる再審査評価等様々な手法による評価を受けます。

### 2. 日本ジオパーク委員会（JGC）及びユネスコによる評価

---

伊豆半島ジオパークは4年に一度、日本ジオパーク委員会とユネスコによる評価を受けます。日本ジオパーク委員会による「審査事前確認調査」は、ユネスコによる再審査の前年に行われるものです。日本、世界ともに国際地質科学ジオパーク計画（IGGP）の定款とガイドラインに示されている考え方に沿ってジオパークの審査が行われています。伊豆半島ジオパークは2021年（令和3年）に、地質遺産の保全、活用の仕組みと取り組み、前回審査時からのジオパーク活動の進展、改善についてユネスコの審査を受け評価を受けることになっています。

### 3. GGNの年次報告書（毎年）

---

所定の書式（A4版で3ページ）で1年間の活動をまとめ、英文でGGNへ直接提出します。この活動レポートは、4年に一度行われる再認定審査における評価資料のひとつとなります。

### 4. ユネスコによる再審査（4年に1回実施）

---

所定の書式（A4版で25ページ以内）で過去4年間の活動をまとめ、英文で提出します。ユネスコ世界ジオパーク事業の日本委員会であるJGCより日本ユネスコ国内委員会の確認を経て、ユネスコに提出されます。ユネスコ/GGNによる書類審査後、現地調査が実施され、審査結果とともに指摘事項が示され、次の審査までに解決が求められます。

### 5. 顧客による評価

---

ジオパークの地域への浸透や活動の普及の度合いについて、アンケート調査や管理施設の集計等について継続的に調査し、活動評価の指標とします。

## **6. サステイナブルツーリズムの効果測定**

---

伊豆半島ジオパークにおいてサステイナブルツーリズムを推進した結果得られる効果を図るための効果測定指標を設定しました。ここでは観光によって地域が持続可能な開発を実践し続けられるよう、環境、社会、経済、SDGs の各分野における成果指標を設定し、成果の「見える化」を図ると同時に、PDCA に基づき課題解決に向けた事業を展開するための基礎データの収集にあたります。

